

## 令和4年度 若葉保育園 自己評価

- (1) 保育方針 ・睡眠時間を確保し、情緒の安定を図り、主体的に物事に取り組む子を育てる・よく見るよく聞くよく考える保育で子どもの感性を育てる・食育と体育で心と身体を育てる・子どもの様々な自立を目指し、保護者や地域と協力して生きる力を育てる
- (2) 保育目標「のびのび いきいき 若葉っ子」 ・心身ともに丈夫な子ども ・自分の事が自分で出来る子ども ・感性豊かで思いやりのある子ども ・表現を楽しみ学びに関心を持つ子ども ・我慢する心と考える力を持つ子ども
- (3) 現状（前年度の成果・課題・改善策等）
- (4) 今年度の努力点・重点目標

<p>園で取り組んでいる事は、とても大切な事だと保護者も思っており、評価をしてもらっているが園任せの事も多く、職員も分かっているが、しっかり保護者や子ども達に取り組むように伝えられたかという点で出来ていないと感じている人が多い。子ども達の気になる行動も多くなり、もっと職員の真剣な取り組みが必要と感じる。個別の対応をしないといけない子が多くなり、人の配置・職員の連携等と共に保護者への伝え方等考えさせられる事も多かった。保護者の中に、クレーマーと思うような対応をする人もおられ、そういう人に限って、園のルールを守らず苦慮する。意見はしっかり聞きながらも、市役所との連携や言われた事をきちんとメモして記録を残す等、対応策についても検討実施する必要がある。職員間の業務の分担化・省力化に力を入れて行く為の意識改革を進めていかないといけない。運営や経営についても実態を伝える事も必要。コロナは終息しておらず、感染対策の徹底と情報共有をしっかり行っていく必要がある。</p>	<p>重点目標を毎年決めているが、取り組みたい事が多くどれも大切だが欲張ると結局どれも中途半端になるので、それぞれの項目で特に力を入れる事を1つずつ決める事にする事で、職員の取り組みの充実を図る。その為の周知をしっかり行い、パート職員や新任にも必要性を伝えていく。チャレンジ目標を決め保護者に意識してもらい取り組みを行う。地域や専門家との連携について、コロナ禍で難しい事もあるが、取り組んでいる事を保護者に伝える取り組みをもっと考えていく必要がある。クレーマーの保護者と思わず、お願いすべき事はきっちり伝える。保護者への説明責任を果たしながら、対策は徹底するように取り組んでいく。職員の業務の省力化は、職員で意識統一を図り、みんなで気持ちよく協力出来るように勧めていく。新たな取り組みとして、園で出来る SDGs に取り組む。幼児でも分かる身近な事を通じて、物を大切に使う・学び学習に興味を持つ等、職員も園児も関心を持つように進めていく。</p>
---	---

- (5) 自己評価
4. とてもよく出来た    3. だいたい出来た    2. あまり出来なかった    1. ほとんど出来なかった

評価領域	評価する重点目標	職員アンケートから	保護者アンケートから	達成状況（成果や課題）	評価	関係者評価	評価	総合評価
食育と体育で心と身体を育てる保育	◎長距離散歩や運動遊びでお腹をすかせ体験学習・食育指導を通して食べる意欲を育てる保育 ・あいうべ体操や咀嚼の日の遊びを通して口周りを鍛える保育 ・姿勢を正し保てるように体幹を鍛え、感覚統合遊びや指・手遊びを積極的に取り入れる保育	口周りを鍛える活動はマンネリ化しており、必要性の再確認をすべき 姿勢の悪さは改善されず、職員の意識的取り組みが必要	食育・給食の内容や運動・長距離散歩等園の取り組みへの理解と満足度は高い 以上児クラスの主食提供も喜ばれている	給食や食育は充実しており、SDGsに取り組んだ事でも、食への興味関心を育てる事が出来た 姿勢は気になる子が多く、体力はついて来たが体幹を鍛える取り組みが足らず成果に繋がっていない 家庭の協力も求めたい	3	散歩で出会う事もあり、体力作りや給食の工夫等、頑張っているのではないかと	4	4
学びに積極的に創意工夫が出来る子どもを育てる保育	◎自ら選び・考え・工夫して心を開放し思い切り遊ぶ保育 ・子どもの話をしっかり聞く・個々の様子をしっかり見る事で、子どもの興味関心に沿った保育 ・生活や遊び・自然事象を通し感動や発見・学びの芽を育てる保育	保育テーマの SDGs について学年で出来る事に取り組み自然に親しむ・調べ学習の習慣も付きつつある為継続したい 個別の関わりはもっと必要	音楽や造形・絵本等知的面の園の取り組みは保護者からの満足度は高い 子どもの興味関心に沿った保育かは分からないと感じる 保護者もいる	子どもが本当にやりたい活動を主体的に出来たかと問われると、まだまだ保育士主体だった もっとわらべ歌等の個別の関わりや自らやってみよう調べてみようとする環境設定も大事だった 職員の自発的な取り組みが増える働き掛けも必要	3	保護者も満足しており、いろいろ工夫して保育しているのではないかと	4	4
子どもの気持ちに寄り添い一人ひとりを大切にする保育	◎情緒が落ち着く為にミネラルを十分に含んだ食事を摂る保育 ・愛着関係を築き情緒が安定した保育(早朝・居残り保育・集団と個への対応等子ども第一主義で接する) ・発達に応じた生活習慣の自立を目指し、個別の関わりを大切に、自己肯定感を育てる保育	ミネラル摂取は定着してきたが職員がその効果や重要性を認識し保護者へのアピールがもっと必要 気になる子への取り組みは難しさを感じる	ミネラル摂取等園が取り組んでいる事は好意的だが自宅で取り組もうとされていないところは課題 生活習慣の家庭での取り組みも個別に指導がいる	ミネラル摂取が情緒の安定に関わる事をもっと保護者にアピールすべき サークルタイムやわらべ歌等自分も友達も先生も好きと思える愛着形成や自己肯定感を育てる対応をしてきたが、職員により取り組みや保護者へ協力の求め方に差がある事が課題	3	取り組んでいる事は良いので、ミネラルを取り入れるなら食育に入れるとよい項目を変えるとよい	4	3
保護者とパートナーシップを深める	◎チャレンジ目標を決め家庭に協力してもらおう為にチェックシートを作り親子で楽しく取り組んでもらう ・年齢に応じた基本的生活習慣の自立と生活リズムや食事・運動の重要性を伝え連携と支援を行う ・保護者の思いに共感しながら園での様子も伝え、共通認識の基、発達支援を積極的に行う	チャレンジ目標は職員の保護者への説明や働きかけが不足していた 保護者対応に苦手意識を持つ職員もあり、子どもの様子の伝え方に差がある	チャレンジ目標は園の意図する事が伝わっていない人が多い 子どもの育ちの共通理解や生活習慣の自立には保護者と職員の認識の差を感じる	愛着障害や発達障害の可能性を感じる子どもに困り感を感じながら、保護者に理解してもらい専門家に繋いだり、子どもとの関わり方の改善に繋がる援助は難しい 保育士の力量や勤務時間内での対応に難しさを感じる 書く時間や内容の検討はいるが、もっとお帳面の活用を考えたい	3	昨年より、関係改善に取り組んでいる事は評価できる関係を深める具体的手立てを示すとよい	4	3
職員の資質の向上	・笑顔と優しい言葉・挨拶や返事を職員が丁寧に言い保護者に説明責任を果たす為、伝わりやすい工夫をする ・組織の一員としての自覚(遅刻をしない・提出期限を守る・報連相を怠らない・他人に迷惑をかけない等) ・自身の指導や援助を振り返り、意識と技術の向上の園内研修を自ら主体的に行う ・保育の事前準備や環境設定を大切に、子どもがやりたくなる保育・考える保育を実践する ・職員同士が尊重し合い思いやりを持って接し、優しく教え合って新任や初心者とも協力協働する	提出期限ややるべき事に気を付けている職員が多い中同じような職員が遅れるので意識させる取り組みが必要 保育内容は個々に建設的な振り返りが出来るのもっと向上出来る 職員間ももっとお互いを尊重出来る改革がある	挨拶や笑顔等職員の対応は良いと評価される一方、職員との信頼関係構築は保護者により、よく話してもらえらる・そうでもないと感じる方に差があり難しい 職員の苦手意識や当番等勤務の都合もあるので、全員が挨拶+ひと言を徹底する	今年話題になった不適切保育の防止にも、保護者や子ども・職員間の信頼関係が大事だと感じた 私達を信頼してもらおう事の大切さと、指摘し合える職員関係を改めて考えさせられた 自らの言動をチェックしたり、それを基に職員間で話し合ったりしたが今後も定期的に行いたい 若い職員・入職間もない職員への指導法や責任の持たせ方等人の考え方が多様化していて難しい	3	職員の取り組みは評価出来るが、今後にもっと期待をする	3	3
業務改善と地域連携	・職員の意識改革や統一を行い、保育の事前準備や行事の準備・書類の整理等は全員が平等に協力して行う ・時間になったら帰る を当たり前にする為に効率化や時間の利用法を工夫して働き方改革を進める ・感染防止マニュアルを周知し感染予防の徹底や健康増進の取り組みを保護者の協力の下で行う ・子どもの現状と課題を職員全員で共通認識し、地域の専門家と協力・連携して発達支援を積極的に行う ・保育園の理念や活動を地域の方に知ってもらい、地域と協力し合える体制作りに努める ・災害時・事故や緊急時の対応等、一人ひとりの職員の責任意識や共通理解を深め地域と協力していく	コロナが緩和されつつあるとはいえ、前半は特に地域との連携が取りにくかった 衛生管理に気を付けたが夏にはコロナが職員にも広がり感染の怖さを感じた 職員の働き方改革は意識されてきているが、更なる取り組み強化も必要 保育の事前準備や書類の整理は意識に差があり、平等性は疑問が残る	地域との交流について保護者へのアピールが足らず、認識が低い 感染対策や安全対策に不安を感じている保護者が少数であってもいるので、園で行っている事をもっと発信する内容や手立てを考えたい 行事の準備や片づけ方を保護者に分かりやすく伝える方法の検討をすべき	HP と玄関掲示板でのおたよりの知らせ方は1年で浸透してきたが、まだ上手く活用出来てない保護者もいる その都度説明し対応する 気になる子は専門家と連携を深める事は出来たが、保護者の認識には差がある 保護者の意向をみながら最善の方法を模索し協力していく 不審者対応について警察に来てもらい指導を受ける 今まで考えてなかった園庭からの避難は指摘を受けて施錠の仕方や避難方法を考えた 災害時の業務継続計画として何か起こった時の連絡方法等周知の必要性がある	3	HP を一新する等向上心を持って取り組んでいるのではないかと 地域連携等取り組みにくい事もあったが新しい取り組みもしており評価出来る	4	3

### (6) 園の評価の総括

夏に職員にもコロナの感染がおり、苦慮したがその後はほぼ園内での感染はなく過ごせている。ミネラルを取り入れた給食や三歳以上児にも主食を提供する取り組みは保護者にも喜ばれている。保育テーマで掲げた SDGs は、それぞれの学年で出来る事を考え取り組んだが、日々の生活でどの程度定着したのか。保護者の関心をどれだけ高められたのか等反省と課題も多い。来年度も引き続き SDGs に取り組み職員間で話し合っていきたい。保育の評価は高いが、子ども達が自発的に考え工夫して思いきり遊ぶ為には時間的に余裕がないと難しい。保育のカリキュラムや時間配分を考えたい。チャレンジ目標を設定したが園が意図した事が上手く保護者に伝わっておらず取り組みに差があった。園で取り組んでいる事は大切な事だが、いずれも職員の認識の差と保護者へのアピールが足りていない。今まで取り組んだ事がなかった不審者対応や専門家との発達相談も出来たので、今後も地域と積極的に連携をしていきたい。

### (7) 次年度取り組み改善策

定員が70名になる事を踏まえ、職員体制や働き方について見直していく。重点目標の取り組みが中途半端にならないように、それぞれの項目で1番取り組むべき事を決め、それでも日々の忙しさに取り組みが曖昧になったり職員によって意識の差が出たりした。本当に今の子どもの状態で園として取り組むべき事を決め、それに関する事を重点的に取り組み、職員の意識統一や保護者への働きかけを行いたい。特に、不適切保育と思われぬ為にも、職員は子どもや保護者への挨拶やゆっくり丁寧な言動を徹底し、子どもの姿勢維持や体幹強化・語彙の増加への取り組み・メリハリのある保育等全てが子どもの情緒の安定や発達支援に繋がる事として取り組みたい。サークルタイム等人前でも自分の思いや必要な事が言える子どもに育てたい。保護者の思いに寄り添いつつ、園の取り組みに理解を求め共に協力出来る関係作りを努力したい。コロナが5類に下がる事を念頭に、行事を本当に子どもの為になる物にする為に、何を止めて何を残すのか改めて考えていきたい。また、地域との連携を考え直し、地域の中の保育園としての役割も果たしていきたい。